

1. 教育目標

☆神様に感謝できる子
 ☆最後まで頑張る元気な子
 ☆人を思いやることのできる子

2. 目標達成のため本年度の重点

・「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉が素直に言えるように導き、みんな仲良く園生活を送る。
 ・保育士は“主体的な子どもの活動”を見守りながら、学年を超えた縦割りの保育活動を多く設け、お友だちの考えを大切にしたり、思いやりの気持ちへとつなげるよう援助する。

3. 評価項目

評価項目	結果	内容
保育の計画性	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以降の新しい生活様式に合わせたよりよい保育を行える計画を立てた。広々とした空間で異年児が触れ合う活動の場を提供し、主体的な園児の活動を見守ってきた。子ども同士で相談し合ったり、自分の意見を述べたり、お友だちの考えも大切にしていける経験を積み重ねていくうちに、責任感や思いやり・憧れの気持ちが育った。保育士も必要に応じて援助しながら、明るい笑顔で1人1人の園児に寄り添ってきた。
保育の方法と展開	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・異年児交流の活動が多かったことで、主になる保育士たちが連携を取り、他の保育士はチームとして関わって遊びを展開してきた。いろいろな角度から園児の様子を見ることができ、保育士の子ども理解も深まった。
保育教諭としての資質向上 能力・良識・義務	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期は心身の発達の基盤が形成される重要な時期であることを保育士たちはしっかり受け止めている。個々の発達段階を踏まえ、1人1人の園児の主体性を大切に、信頼関係を築くため、日々努力する姿がある。 ・カトリック幼稚園に勤務している自覚を持ち、教会の大祭に参加してキリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にしている。また、日々の保育の中でイエス様の教えを伝えながら、子どもたちが仲良く遊べるよう努めている。
保護者への対応	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・“クラスだより”として一週間ごとに毎日の活動の様子を保護者にお手紙で知らせている。 ・緊急連絡時、園から一斉メールで内容を伝えている。 ・希望者による個人面談を行っているが、保護者との連携を深めるため、さらに来園していただく機会を設けたい。

地域・関係機関との連携	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児幼児教室を実施した。 ・ここ数年、行われていなかったミニバザーを開催し、園児と家族・その他園児家族のお友だちなどに参加していただき、久しぶりに楽しいひとときを過ごすことができた。近隣の高校の吹奏楽部の方が来園し、楽器の紹介をしたり、子ども向けの曲を演奏していただき、ミニバザーに花を咲かせてくれた。 ・コロナ禍で地域の方々との関わりが減ってしまったことは少なからず感じる。高齢者施設の訪問や地域の方々が自由に参加できるバザー復活を目指したい。
研修・研究	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修を含め、園内外の研修に参加することで新しい情報を得ることができ、保育の引き出しが増え、園児との関わりの中で活かすことができた。
安全管理	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、避難訓練を行い、訓練の結果を職員間で共有し、次の訓練に活かしている。 ・年6回、函館市交通課の指導員が来園し、交通安全指導を行っている。 ・消防の方に来園していただき、数名の職員が救命講習を受けた。 ・大切な園児の命を守るため、大きなケガや感染症の大流行がないようにアンテナを張り巡らし、環境構成や言葉がけを行っている。

4. 2023年度の総評

結果	内容
4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士たちそれぞれが取り組むべき課題について自己点検を行い、日々の保育の見直しができた。 ・“主体的な子どもの活動”を重点に、学年を超えた縦割りの保育活動も多く、様々な触れ合いを通して、園児たちは年齢の異なるお友だちへの接し方を学ぶことができた。 ・コロナ禍で行われなかったミニバザーを保護者の方のたくさんのご協力を得て開催し、園児たちの輝く笑顔を見ることができて、とてもよかった。

5. 来年度課題

<ul style="list-style-type: none"> ・新年度は助祭様に毎月1回園児に向けての聖話をお願いしているので、保育士もイエス様の教えを深めながら、子どもたちを仲良く遊べるよう導く。 ・積極的に研修に参加し、保育の幅を広げる。 ・笑顔の絶えない楽しい幼稚園づくりに教職員全員で取り組む。
--

1. 教育目標

<input checked="" type="radio"/> かんしゃする子 <input type="radio"/> かんがえる子 <input type="radio"/> じょうぶな子 <input type="radio"/> やさしい子

2. 目標達成のため本年度の重点

<input type="radio"/> 子ども達一人ひとりの主体性を育む保育と教育

3. 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内 容
保育の計画性	3	前提として、5領域や発達段階のねらいに基づく保育計画を持ちながらも、子どもの実態や関心意欲、アイデアに寄り添い、主体的な活動になるよう保育計画を考えた。
保育の方法と展開	4	本年度の重点を受け、子どもに計画通りに「させる」のではなく、子どもの状況や遊びの展開において適宜、活動を再構成する等、子どもの主体性を考えた保育の展開に心がけた。
保育教諭としての資質向上 能力・良識・義務	3	経験に応じた各種研究会に参加して専門家としての在り方、知識、技能を高めることに努めた。今後は個で受けた研修を全体に還元できる環境を作りたい。
保護者への対応	3	信頼関係を築けるよう親身な対応を心がけた。日常の子どもの様子については毎月のお便りやブログ等で知らせているが、「もっと・・・」という声もあるので、今後も工夫をしながら発信して行きたい。
地域・関係機関との連携	3	これまで、コロナの感染防止のために、ほとんどの交流活動がストップしていたが、5類になった今年度は、町会と連携をして花植え運動を行うことができた。
研修・研究	4	来年度の私学の研究会に向けて、月1回のペースで園内研修を行い、プレ公開保育（5日間連続の参観日）を開催することができた。
安全管理	3	危機管理マニュアルに基づく訓練を行い、その都度評価を行い、次の訓練に生かした。ヒヤリハットの事案から、預かり保育の在り方について、保育室の使い方、遊び方についての改善を図った。

4. 2023年度の総評

結果	内 容
3	年度当初から、研修の機会を設け「子ども達の主体性を育む」ことについて全体で話し合い、イメージを膨らませ、カリキュラムの一部分ではあったが手立てを講じながら実践レベルで具現化することができた。このことを糸口としながら、今後さらに「子ども達の主体性を育む」という視点からのカリキュラム見直しを行っていききたい。

5. 来年度課題

<input type="radio"/> 子ども達の主体性を育む環境づくり。 <input type="radio"/> 園児の安全管理、事務作業の簡略化、保護者への情報発信に資するICTシステムの導入。 <input type="radio"/> 園外保育・交流活動の充実。

1. 教育目標

- ・元気で明るく逞しい子ども
- ・人に優しく、自分が大好きな子ども
- ・様々なことに興味関心を持ち、探求心のある子ども

2. 目標達成のため本年度の重点

・健康を守る保育

・子どもたち自身が安全に過ごす方法が分かるように、指導する。また、体の使い方が分かるような保育内容を取り入れ、体の使い方を覚えていってもらう必要がある。周りを見て遊ぶことをもう少し意識させられるよう指導する事は勿論、怪我につながる為の環境構成も見直す必要がある。危険認知能力を小さいうちから付けさせる保育を考えていきたい。特に体の使い方等。

・異年齢との関わりを大切にする保育

今年度から以上児、未満児との交流する時間「ふれあいタイム」を月に一度開催し、一緒に関わり遊ぶ時間をつくった。未満児は、初めの頃は慣れないため、泣いている子もいたが、現在では泣かずに参加できる子ども増え、以上児と一緒にわらべうたやダンスなどを楽しめている。

・人権を大切にする保育

- ・日々のお祈りによって、世界の平和を意識する事が出来た。
- ・苦手な事、周りとは違う事を受け入れ、その子が出来る事、得意なことに目を向け、お互いが認め合える保育を心掛けたい。
- ・どんな時も、子ども達の気持ちに寄り添える保育が理想。

・共に育ちあう保育

- ・友達や年上のお友達の姿に感化されて「やってみよう！」という気持ちが育つ瞬間が多くとても良かった。
- ・先生たちが褒めることで、自信を付けたり、褒められた友達をお手本に頑張ろうとする姿が見られてよかった。今後は褒められるためにだけでなく行動が出来るようになり、自信を持てる子を増やす言葉がけをみんなで考えていけるとよりいいと思う。
- ・行事等では、一人ひとりの個性を大切に、仲間意識を持って過ごし、社会性も所々ではあるが身に付けられていた。みんなで協力して得られた達成感や満足感は、子ども達の自信につながっていった。

・保護者と共に進める保育

- ・保護者の無理な要求はしっかりと理由を伝えて断り、協力できるところは協力して保育していくことが出来ていたと思う。
 - ・個別面談以外でも、日々の連絡帳や、送迎時にも子どもの成長をお伝えし、お家での困りごと等、密にやり取りが出来ていると思う。
- 情報交換は、それぞれ連絡帳や個人面談で行われ、保護者や子どもに対して、丁寧かつ迅速な対応を心掛けることができた。

・地域とのかかわりを大切にする保育

- ・園外のお散歩時には、近所の方に挨拶をしたり、公共の場に行くときはマナーを子ども達に伝えたりしながら、地域との関りを大切にしている。
- ・山車行列では親子での参加を楽しむことが出来ていた。ハロウィンやクリスマス会などの町のイベントに作品展示を通して参加し、それによって親子で参加をするきっかけ作りが出来ていた。
- ・小学校や保健師さん療育機関などとの連絡を取り、対象園児に対しての共通理解を図る努力が出来てい

た。

3. 評価項目 内容と結果 …【(括弧)内は結果の数字になっています】

保育の計画性 (3.6)

- ・子ども達の成長、発達段階に合わせて各クラス保育計画を立てている。その日の活動の振り返りとして、クラス担任同士、「ここはもっとこうの方が良かった」と話しができる日もあったが、時間に追われてできない日もあった。
- ・行事は、早めに計画を立ててそれぞれが取り組んでいたため余裕があり良かった。
- ・週案を立てる事で、見通しを持って保育を進められる。
- ・子どもの様子、能力を見極められず、反省や課題が残る内容もあった。
- ・全体的に製作面が多く、絵画や、運動面がもう少し充実出来ると良い。

保育の方法と展開 (3)

- ・モンテッソーリ教育については、職員間の学びが必要。
- ・行事に向けての活動は、今年は特に、計画的に行うことが出来ていたと思うが、日々の保育では、ややマンネリ化の傾向にある為、ステップアップも踏まえ、時代に合った新しい事へのチャレンジも望ましい。
- ・子どもの様子を見極め、あまり形に捉われず、出来る事をどんどん伸ばしてあげたい。

保育教諭としての資質向上・能力・良識・義務 (4)

- ・講習会等に参加し、積極的に学ぶ事ができている。日々の保育の中で良識とは違った場合、その都度声を掛け、考えてもらうように努めている。保育者全員で子ども達に関わり、気になる事があれば、保育者同士意見を交換し、情報を共有することができていた。子どもが今何をしたいのか、何を求めているのか、思いに寄り添い、気持ちを汲み取りながら関わり、計画通りの流れで進めるのではなく、臨機応変に対応する事ができていた。
- ・子ども達の成長発達に応じて、より発展した保育、あそびが提供できるように、保育者として学んでいく必要がある。
- ・日週案や日誌に時間がかかりすぎて、保育準備が追いついていない様子も見られた。仕事の分担や仕事の手順を考え、相談するとよりいいかと思う。
- ・仕事の手順を考え、能率良く処理するよう努めている。
- ・同僚や保護者とも積極的に関わる事に努めたい気持ちはあるが、状況によってはつい控え目になっていたところもあり、改善したい。
- ・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。

保護者への対応 (4)

- ・保護者の様々な価値観に寄り添いながら、園での子どもの様子を伝えながら、成長発達を促していく為には何が必要なのか共に考える事ができた。連絡帳だけでは伝わらない部分や、保護者からの相談については、送迎時などに必ず顔を合わせて、表情や話し方を汲み取りながら、口頭で話すように努めた。
- 保育者によって、体調不良時の登園について認識が違う事があり、保護者に伝える前に必ず確認をする方が良い。
- ・親の気持ちを聞き・丁寧に接している先生が多く良かったと思う。

た。

3. 評価項目 内容と結果 …【(括弧)内は結果の数字になっています】

保育の計画性 (3.6)

- ・子ども達の成長、発達段階に合わせて各クラス保育計画を立てている。その日の活動の振り返りとして、クラス担任同士、「ここはもっとこうの方が良かった」と話しができる日もあったが、時間に追われてできない日もあった。
- ・行事は、早めに計画を立ててそれぞれが取り組んでいたため余裕があり良かった。
- ・週案を立てる事で、見通しを持って保育を進められる。
- ・子どもの様子、能力を見極められず、反省や課題が残る内容もあった。
- ・全体的に製作面が多く、絵画や、運動面がもう少し充実出来ると良い。

保育の方法と展開 (3)

- ・モンテッソーリ教育については、職員間の学びが必要。
- ・行事に向けての活動は、今年は特に、計画的に行うことが出来ていたと思うが、日々の保育では、ややマンネリ化の傾向にある為、ステップアップも踏まえ、時代に合った新しい事へのチャレンジも望ましい。
- ・子どもの様子を見極め、あまり形に捉われず、出来る事をどんどん伸ばしてあげたい。

保育教諭としての資質向上・能力・良識・義務 (4)

- ・講習会等に参加し、積極的に学ぶ事ができている。日々の保育の中で良識とは違った場合、その都度声を掛け、考えてもらうように努めている。保育者全員で子ども達に関わり、気になる事があれば、保育者同士意見を交換し、情報を共有することができていた。子どもが今何をしたいのか、何を求めているのか、思いに寄り添い、気持ちを汲み取りながら関わり、計画通りの流れで進めるのではなく、臨機応変に対応する事ができていた。
- ・子ども達の成長発達に応じて、より発展した保育、あそびが提供できるように、保育者として学んでいく必要がある。
- ・日週案や日誌に時間がかかりすぎて、保育準備が追いついていない様子も見られた。仕事の分担や仕事の手順を考え、相談するとよりいいかと思う。
- ・仕事の手順を考え、能率良く処理するよう努めている。
- ・同僚や保護者とも積極的に関わる事に努めたい気持ちはあるが、状況によってはつい控え目になっていたところもあり、改善したい。
- ・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。

保護者への対応 (4)

- ・保護者の様々な価値観に寄り添いながら、園での子どもの様子を伝えながら、成長発達を促していく為には何が必要なのか共に考える事ができた。連絡帳だけでは伝わらない部分や、保護者からの相談については、送迎時などに必ず顔を合わせて、表情や話し方を汲み取りながら、口頭で話すように努めた。
- 保育者によって、体調不良時の登園について認識が違う事があり、保護者に伝える前に必ず確認をする方が良い。
- ・親の気持ちを聞き・丁寧に接している先生が多く良かったと思う。

- ・話し方が、お友達と話しているかのような話し方になってしまうことがあるので、職員としての言葉遣いを全職員が気をつけられると良い。
- ・全職員が共通の理解で対応できるように情報共有し対応の統一ができるようになってきている。今後も共通の対応ができるように気をつけて行けると良い。
- ・お便りや、連絡帳で子ども達の様子を分かりやすく伝えようと努めていた。
- ・保育参観や懇談会、面談等にて、園や家庭での子どもの様子を共通理解し、得られるよう努めた。
- ・園日より等で、園や子ども達の様子について適切に情報を提供している。

地域・関係機関との連携 (3.6)

保育の中で地域の施設に訪問し、庭園や鯉を見学させてもらったり、消防署や警察署等にも見学に行く事もできた。

子どもの育ちについて気になる事がある場合には、関係機関とも連携がとれた。

・コロナ明けということもあり、地域との交流は難しいところもあったが、山車行列の参加やハロウィンクリスマス会などで子どもたちの作品を展示してもらうなど、園児が地域の行事（イベント）と関わるきっかけとなって良かったと思う。

- ・保健師さんや教育機関などと
- ・町内のイベントに積極的に参加し、地域の方達の中で楽しく活動する機会が沢山あった。
- ・小学校の先生たちによる園訪問時に新一年生の申し送りをを行い、共通理解を図る。

研修・研究 (3.3)

- ・日時の都合が合えば、積極的にキャリアアップ等の研修に参加する事ができた。興味のある研修は、オンラインで受ける事ができ、家庭のある保育者も自宅からでも受ける事ができた。絵本の読み方やわらべうた、乳児のあそびの研修は、実際の保育でもすぐに子ども達に提供することができ、周りの保育者にも伝える事ができて良かった。技術や知識を増やしていく為にも、これからも積極的に研修参加をする必要がある。
- ・経験の多い先生もいるので、もっと相談し子どもたちの状況に合った内容の保育ができたのではないかと。
- ・未満児と以上児クラスの職員がそれぞれ交換して保育をする方法も是非実現したい。

安全管理 (4)

- ・事故を予想し予防に努める。
- ・園内での危険が予想される箇所を把握し、事故等の予防に努めている。
- ・園内の換気、採光、温度調整など環境整備に心掛けている。
- ・毎月、避難訓練を行い、子ども達の安全確保に努めている。
- ・初の試みとして、園庭遊具の整備を親子で行う

4. 2023年度の総評

総評 (3.3)

- ・今年度からふれあいタイムができ、昨年度よりも以上児、未満児と交流する時間が増え良かった。交流を重ねる事に、自然と未満児から以上児のお友達に手をつなぎに行く子もいて嬉しく感じる。
- ・各クラスでは、子ども達の運動発達を促す為にはどうしたらよい環境か、担任同士考え話し合い、過ごしやすい保育室作りや、手作り玩具を提供している。
- ・保育活動では、保育者の経験年数にもより、豊富なあそびの活動ができるクラスもあるが、活動がマンネリ

化傾向にある為、子どもの成長発達に合わせて活動内容も発展が必要と感じる点もある。

- ・保護者対応では、保護者の思いに寄り添い共感しながら、アドバイスや、子どもの為には必要な事は伝えることができていた。ケガや、体調面で心配な事がある場合には、降園時、担任保育士が保護者に直接会えない場合があるので、お残りの保育者に口頭で伝えてもらうように努めた。
- ・行事ははやめにとりくむことで、子ども達にいつもの年よりも余裕があったように思う。
- ・行事に関しては、職員の慣れもありスムーズかつ要領よく進められ、子ども達の成長も大いに感じられた。
- ・お仕事に関しては、職員にバラツキがあり、得意不得意が見られ、勉強不足を感じる。

3. 来年度課題

- ・保育経験年数が浅い保育者への指導（経験年数のある保育者と一緒にクラス担任を持ち、保育の流れ、子ども達との関わり方を学ぶ）
- ・子ども達に興味や成長に合った保育・教材の準備や研究・話し合い
- ・こどもたちがゆとりのある毎日が過ごせるように準備
- ・職員、保護者間の連携の強化。信頼関係の構築。
- ・子どもの中心の保育内容、運動面の充実。
- ・人権を大切にする保育の継続
- ・自分の考えを持ち行動できる子どもの教育。

1. 教育目標

『木と共に～みんなで愉しもう～』

2. 目標達成のため本年度の重点

- ・自然に恵まれた環境を生かした自然遊びを中心とした中で、数年前から取り入れている木育を年間通して保育に取り入れていく。
- ・園児・教職員のみならず、保護者や地域の皆様が愉しめるような機会を保育の中に取り入れ、子どもたちの育ちに繋げたい。(目に見えない能力の獲得のために)

3. 評価項目(5段階評価)

評価項目	結果	内容
保育の計画性	4	若い先生と中間層の先生たちに回答の差があり、実践を積み上げることで保育に計画性が確立され、計画外のことにも対応できるようになっていくと思われる。環境構成に関しては日々整えように助言している中、まだ改善点や今現在の子どもたちに沿った環境整備ができるよう、タイムリーな環境整備を今後も心掛けたい。
保育の方法と展開	4	安全面・子どもたちへ見とりや理解に関しても、経験年数に応じた返答が戻ってきており、保育の内容もスキルアップが必要な分キャリアアップ研修も行っていくことでより自身の保育に多様性と自信につながっていくのではないかと思うので、方法の一つとして研修の機会を増やし薦めてみたい。できる限り管理職のスキルの提供はし続けたいと思う。
保育教諭としての資質向上能力・良識・義務	4.5	保育教諭としてプロ意識を持ち、函館カトリック学園の1職員として自覚ある職員が多くて安心しております。若い先生たちのも保育教諭として誇りを持ち、自分自らももっと愉しみながら保育を展開していく醍醐味を獲得してもらいたいと望んでいます。カトリック幼稚園の教職員として神様を身近に感じ、自信をもって保育ができるよう支えたいと思う。
保護者への対応	4.7	保護者対応はどの保育教諭も丁寧に細やかに行っていると思うので、自己評価でもそれが表れている。保護者アンケートでも細やかな対応への感謝の記載をいただいてありがたいが、中にはそういう保護者ばかりではないので、どんな保護者にも理解が深まるような対応をみんなで共有しながら責任が一人にかからないよう進めていこうと思う。
地域・関係機関との連携	4.5	保護者アンケートでも地域の方々との連携に好評をいただいている通りコロナ禍があけて、人と人のふれあいが戻り始め、高齢者を中心とした交流が一步前進できた年。課題なのは小学校との連携が今一つなところがあるので、今回管理職同士が共有することで、今後のつながりを深められるきっかけになればと思う。

研修・研究	4	常に変化しつつある保育に日々研鑽しながら、現場の先生・管理職も含め研修の機会を逃さず、アンテナをめぐらし情報収集しながら、共有しながら、保育に生かしていけるようにする。
安全管理	4	今回防災研修を通して学んだことを参考に防災計画を見直したり、避難訓練や救急時の訓練等をより具体的に実施し、日々の保育の事故やヒヤリハットも含め、園児に関わり重要な申し渡し事項も園内全教職員で共有し、実際にその場に居合わせた誰でもが迷わず、確認しつつ対応できるような体制づくりを目指し、体制強化により一層努力したい。

4. 2023 年度の総評

結果	内容
4.2	<p>一人ひとり自分を評価する感覚に多少差があるが、全般的に自分の保育に自信と責任を持ち、確立されているとそれなりの評価になっていると推測します。わからないことをわからないままにしておかず、聴くことは恥ではないので、どんどん上の先生に聞いて獲得したり、自らの保育のカラーを見つけていってもらいたいところです。ただ、まだまだ不安な中の行事であったり、初めての年齢担当であったりするので限りなく援助しながら依頼的にならないようちょうどよいこころ合いを見て見守るようになる必要があります。また、全般的に学びに対して消極的な気がするので、様々な方法で保育者として学び、子どもたちと共に育ち合ってほしいと考えます。</p> <p>時間の有効活用を促進し、勤務時間内で効率よく働けるようにすべてにおいて早めの準備を限りなく励行致します。</p>

5. 来年度課題

<p>通算6年目、3年目になる若者たちが一回り大きくなる1年になってほしいと願います。</p> <p>人を育てることは難しいことですが、育ちやすい環境を整えることは子どもたち同様、すぐにできることではないかと思うので、先生たちが何か一つでも自信をもってできる保育を見出してもらえたらと思います。また、少ない人員配置の中、主幹が2名置ける状況にないのはもちろんのこと来年度に向けて中間層の人材確保に早い段階からかかれないとなりません。また、パート職員の働き方が変わる年になると思われるので、その辺の意向調査も含めパート職員との共有事項も再確認しながら、運営していきたいと思う。また、園の利用定員を変更したものの今後の入園数が見込めるか不安・・・出生数が付き1～2名でない月もある中で今後どうなっていくのか・・・町内の各園が定員の半数に満たない人数の中、町は今後どう考えているのか・・・園児確保・職員確保は永遠の課題です。</p>

1 教育目標

幼児期に適切な環境を与え、心身の発達を助長することを目的とし、キリスト教の愛の精神を基底に幼児教育の理想をすすめていく。

2 目標達成のため本年度の重点

- ・ 神様の存在を信じ、『目に見えないもの』を大切にし、やさしい心情を育てる。
- ・ 自分の意思を言葉で表すことができるように、ひとりひとりを大事にする。
- ・ 生活習慣を重視し、身につくように指導する。

3 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内 容
保育の計画性	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の教育方針や教育目標を理解度の評価は高かった。 ・ 環境構成のなかで、乳児の遊具の整備が低かった。 ・ 異年齢とのかかわりでは、乳児と幼児との交流を計画立て行うことができたのがよかった。 ・ 指導計画の作成では、保育教諭同士での話し合いを持ち、計画立てていくことができた。
保育の方法と展開	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「健康・安全への配慮」・「乳幼児の見取りと理解」・「内容」は、高評価が多かった。 ・ 「保育者同士の協力連携」では、お互いに補い合い、仕事を進めてきた。
保育教諭としての資質向上能力・良識・義務	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちや保護者との信頼関係を築き、努力している。 ・ 自分の仕事役割や当番等には、お互いに教え合い、協力し合って取り組んでいた。 ・ 園内における報告・連絡・相談では、連絡事項等が密にとれない場合があった。
保護者への対応	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との関係は、概ね評価が高かった。 ・ 「対応上のマナー・対処方法」では、特にお迎え時の対応に十分配慮するように心掛けていた。
地域・関係機関との連携	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未就園児親子活動は、各クラス持ち回りで行ったので、子育て支援の役割を担っている自覚と理解ができた。 ・ 地域の行事等には、依頼があった場合は応えていたが、幼稚園から発信することがなかった。 ・ 地域の小学校との交流や情報交換が全くなかった。
研修・研究	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちを取り巻く環境の変化や支援の必要な子どもたちへの保育の在り方等の研修の参加が少なかった。 ・ 保育のすすめ方などの保育者同士での話し合いは持たれていない。

安全管理	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震、火災その他の防災計画に沿って、子どもたちが対応できるように努めた。 ・ 厨房の清潔・安全に注意した。 ・ 教職員の職務分担に従って、行動している。
------	-----	--

4 2023 年度の総評

結果	内 容
3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の教育理念や方針等を理解し、園の目指す子ども像の近づけることはできている。 ・ 個々の幼児の発達を見極め、指導計画を作成し、保育教諭間での反省・評価を行い、次の保育に生かすことができた。 ・ 保育環境作りや教材準備等では、余裕を持っての準備が難しい場面があった。 ・ あいさつや返事など、当たり前のできる子を目指した。 ・ 異年齢とのかかわりを増やしたことで、お互いに刺激を受けて成長することができた。 ・ 子どもの興味や関心を理解し、見守ったり、助言することで、自分から行動できるようになってきた。

5 来年度課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット等の ICT の活用 ・ 小学校との連携（就学前の引継ぎのみ） ・ フリーの教諭の確保 ・ 打ち合わせ(報告・連絡・相談)の徹底(特に連絡) ・ 研修（特別支援含む）に参加することで、支援の仕方を理解し教職員が育ちあう環境。 ・ 落ち着きのない子や手が出たりする子など配慮が必要な子に対しての指導の仕方。 ・ 園外保育や散歩の充実。

1. 教育目標

- ・神を知り、神を愛し、人を愛し、周囲に感謝する子ども
- ・困難に耐えていく力を持ち、最後まで頑張る子ども
- ・自分の考えをはっきりと表現できる子ども
- ・友達と一緒に遊んだり、協力して仕事ができる子ども
- ・物事をしっかりと見たり聞いたりすることができる子ども

2. 目標達成のため本年度の重点

・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の発達の連続性を考慮して0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を行う。又、認定こども園として在園児だけではなく、地域に向けての子育て支援や子育て応援、保護者支援を行う。

3. 評価項目（5段階評価）

評価項目	結果	内容
保育の計画性	3.3	子どもの育ちの姿から、指導計画の見直しを行ったり、社会情勢を鑑みて工夫ある保育を行っていくことが出来た。子どもが主体的に関わる環境構成については、課題とし今後検討していく。
保育の方法と展開	3.3	職員が日々懸命に一人ひとりを理解しようと努めている。職員室でその日の様子についての情報交換が行われているので、担任以外でも共通理解が出来ている。教材については、余裕をもって準備出来ないこともあったので、職員間の連携・協力体制を強化していく。
保育教諭としての資質向上 能力・良識・義務	3.3	保育者としての能力・姿勢・責任は職員が個々に個性を発揮しながら、子ども達と共に成長している。しかし、専門的な知識に関しては研修を重ねていく必要があると感じる。
保護者への対応	3.5	保護者とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係と醸成するよう配慮している。保護者会やクラス懇談、個人面談等でより、子どもの共通理解を深めることが出来た。
地域・関係機関との連携	3.1	町内の小学校の児童との交流を通して、年長児が小学校への期待を高めることが出来た。コロナが5類に移行したことで、町内のイベントに積極的に参加し、町民の温かさを感じる事が出来た。
研修・研究	2.8	保育経験を重ねた保育者がキャリアアップ研修に参加し、各部門のリーダーに慣れるように取り組む。子どもを取り巻く様々な状況が変化している中で、実際の保育や子どもへのかかわり方等に置き換えて考えられるように、時代に沿った社会の流れに応じた知識を深める研修が課題となる。

安全管理	3.5	防災用品の見直しも行き、防災について職員で話し合う。今後も各マニュアルに沿った対応を心掛け、子どもたち、職員の健康・安全を守る行動が身につくように取り組んでいく。
------	-----	---

4. 2023年度の総評

結果	内容
3.2	評価項目やそれに関する事柄について、園の状態を職員間で再確認し、複数の改善点を見つけることができた。子どもたちが育って欲しい姿を基に、保育者同士のコミュニケーションを大切にしながら、環境構成を心掛けてきたが課題も見つかる。今度は、今まで以上に職員間で子ども理解を共有し、その日の子どもの姿や、次の日に活かせるよう情報交換の時間を大切にしていきたい。感染症対策について、換気や基本的な感染予防についても細かな取り組みを行ってきた。2023年度はこども達の健康が守られたと感じる。

5. 来年度課題

教育・保育の充実	・一人ひとりの乳幼児理解に努め、援助を工夫することで個々の成長に繋げていく。また、育ちをつなぐための職員間の連携や共通理解に努める。
教職員の質の向上	・保育者としての向上、新たな保育への取り組みや乳幼児に対する理解、食物アレルギーへの知識など、専門的知識を高めるために、より積極的に研修へ取り組んでいく。
安全管理	・各マニュアルの見直しを行い、危機管理について職員間で話し合いを行う。 ・毎月の安全点検を丁寧に行い、園内外の怪我や事故を未然に防ぐ。